

耳公民館だより



第55号 令和6年3月



(折り紙サークルさんの作品)

冬なのか春なのか、わからないような3月でしたが、折り紙サークルさんが季節感のある作品で公民館を飾ってくださいました。いつもながら、すばらしいできばえですね。

ひなまつりは3月始めの伝統文化ですが、ひな人形を飾るのは2月の立春から1か月ほどとか。ひな祭りの前日にあわてて出してくるのは「一夜飾り」と言ってあまり縁起が良くないようです。片づけるのが遅れるとと…という話もありますが、この作品に関してはずっと見ていたいぐらいですね。

講座をふいかえって

あっというまの一年間、
いろいろやりましたね…

春の天ぷら大会



小川の生き物観察会



流木アート



大人のための絵本の時間



カブトムシ観察会



ベンチ作り



炊き込みご飯

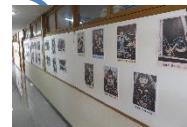


オニヤンマ作り



中央小学校児童 版画作品展

今年も紙版画や木版画を38点展示しています。
公民館にお気軽にお立ち寄りください。



館長のつぶやき

もち

今回の公民館だよりでは、素敵なおひな人形の写真を載せましたが、ひな祭りというと思いしん坊の私などは菱餅を連想してしまいます。学校給食にデザートとしてつくことがあるからでしょうか。

この時期は菱餅、桜餅、柏餅と続きますが、もち米は日本が誇る美味しいお米の一種で、もち米からできる食べ物はお菓子も含めると数百種類もあると言われると思います。皆さんはどんなものが思い浮かびますか。

食べる話ばかりではなく、餅は作りやすく加工もしやすいことから、色々な形の餅細工としても使われます。弥美神社の例大祭のお供えも、集落ごとにちがった形のものが伝統的な文化として受け継がれています。

近年はできた餅を買ってくるのがほとんどですが、かつては家でもちつきがありました。皆さんはご存じのことでしょうか、前日にお米を水につけることから始まります。そして、蒸す、つく、丸めるをはじめいくつもの段階と細かな技があります。どっしりとしたうすと美しい杵、息のあったリズムカルな「合いの手」など、子供の頃に感心して見ていた思い出があります。

公民館をもちつきのうすとするならば、使っていた人がいなければただの重たいかさりです。おかげ様で耳公民館は定期的に活動されるサークルと講座の参加者の方々でいいリズムを出していただいています。柔らかくねばりのあるいいものになって、「長もち」していきたいですね。